



田村剛一議員

水産振興

水産業不振の打開策

関係機関と協議検討

図るため、市場、買受人組合、商工会、山田町を構成団体として、「山田魚市場外來船誘致協議会」を設置し、タラ、イカ、サンマ船などの誘致を進めようとするもの。地元船水揚げは、複雑な事情もあり難しい。

質問 今年度の殻付きカキの出荷状況は深刻と聞く。その原因と対策は。

沼崎町長 殻付きカキの一月末現在出荷金額は七億八千万円で昨年の八〇割程度。原因は各漁協が八月から九月にかけて、抱卵した身入りの悪いカキを出荷して評価を落としたためと聞いている。対策としては、根本的には養殖数量や付着物の削減による品質向上が必要であるが、春の身入りのよいカキの販売促進も重要と考え、機会をとらえ関係者に提案したい。

質問 外來船誘致に取り組むとある。どのようにして、外來船を誘致するのか。それ以上に、地元船の水揚げを図る努力をするべきと思うがどうか。

沼崎町長 山田魚市場の水揚げは近年十億円前後で推移。平成四年度の四十二億の比ではない。そこで、今回、魚市場の経営安定を



新たな水産業の振興策として期待される「山田カキまつり」

町の考えを聞く

山田高校の存続発展

全力で支援したい

教育行政

質問 高校再編成計画のもと高校の統廃合、分校化が進められている。山田高校は大丈夫か。町教育委員会は、山田高校存続のためどのような対策を立てているか。

松尾教育長 今進められている再編計画は、山高規模の一学年二学級の学校について、定員八十人に対し二年間六十人に満たない場合、学級減を行い、統廃合が分校にしようとするもの。本町教育委員会としては



山田高校はこれまでに9千余人もの卒業生を送り出しています（昨年10月の山田高校創立80周年記念式典）

山田高校の存続発展を願う「中高連携教育推進事業」を立ち上げた。これは、山田高校の「魅力ある学校づくり」を支援すると共に、教員交流をはじめ、クラブ活動、行事の交流を通じ、山田高校のすばらしさを、中学生や町民に理解してもらい、山田高校の存続発展に結びつけようとするもの。

質問 町長に山田高校存続の決意を聞きたい。
沼崎町長 存続発展を願う全力で支援していく。